

長崎県は、全国で最も多くの「しま」を有する県です。それぞれの「しま」には、その土地にしかない、美しい自然、豊かな歴史、そして温かい人々の営みがあります。長崎県の宝である「しま」のことを知り、思いを馳せることを県民の一人として大切に、「しま」とのつながりも含めて、私たちの長崎県があることを誇りにしたいものです。

シリーズ1では新上五島町にスポットを当てました。新上五島町は、五島列島のうち、中通島と若松島を中心に成り立っており、無人島を含めると60以上の島があります。

<新上五島町の位置>



【自然の美しさ】

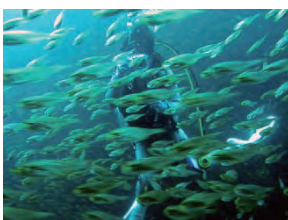
<若松大橋と周辺の島々>

中通島と若松島を結ぶのが、若松大橋です。両島の間にも数多くの島があり、その島々が織りなす美しい光景は、まさに長崎県の誇る景観です。



<矢堅目（やがため）>

円錐形の島です。その形と、遠くに東シナ海を望む光景は美しく、多くの人を魅了します。



スキューバダイビングも楽しめます。

C 大曾教会

A 青砂ヶ浦天主堂

B 頭ヶ島天主堂

<蛤浜（はまぐりはま）>

遠浅の海、白い砂浜の美しさは時間を忘れてしまうほどです。夏は、多くの観光客でにぎわう上五島を代表する海水浴場です。



D キリシタン洞窟

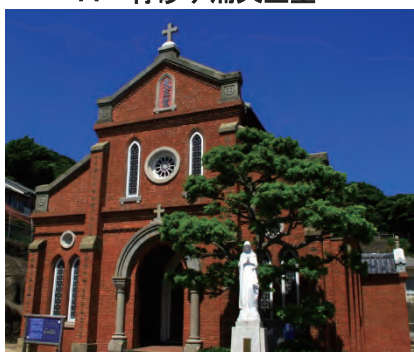
中通島

若松島

【自然の美しさ】

新上五島町は、我が国でキリスト教が禁じられていた時代においても、長きに渡って「潜伏キリシタン」が信仰を守り続けた島として有名です。中でも、頭ヶ島は、江戸時代後期に大村藩外海地方より移り住んだ「潜伏キリシタン」が、病人の療養地として使われた島へ移住することにより、自らの信仰を続けた島であり、その集落は世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連資産」の構成資産となっています。大正時代、この地に、新上五島町出身の建築家であり多くのカトリック教会を建築した人物として有名な鉄川與助氏により建てられたのが「頭ヶ島天主堂」です。鉄川與助氏は、頭ヶ島天主堂のほか、青砂ヶ浦天主堂や大曾教会など、今に残る美しい教会の建設に携わりました。

A 青砂ヶ浦天主堂



B 頭ヶ島天主堂



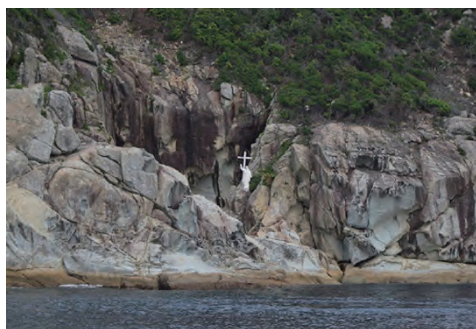
C 大曾教会



D キリシタン洞窟

明治初期のキリシタン弾圧の際、若松島の里ノ浦地区のキリシタンたちが、迫害を逃れて隠れた洞窟です。

キリシタンたちは、船でしか行けないこの洞窟に隠れ、しばらくの間生活していました。



新上五島町には5中学校!!

左ページの地図中の①～⑤は、新上五島町にある5つの中学校を示しています。

- ①上五島中学校
- ②魚目中学校
- ③有川中学校
- ④若松中学校
- ⑤奈良尾中学校

約340名近くの中学生在が学んでいます。

【五島神楽】

右の写真は、平成28年に国の重要無形民俗文化財に指定された「五島神楽」の一つである「上五島神楽」です。五島列島では、新上五島町のほか、五島市や佐世保市宇久町においても神楽が継承されており、それらの神楽は総称して「五島神楽」と呼ばれています。神楽は、地元の各神社の祭礼において行われます。



(写真はすべて新上五島町提供)

※教会の写真掲載については、大司教区の許可をいただいています。